

ミーティングの 10のステップ



子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

ステップ概要

ステップ0

本音を出せる環境があるか

ステップ1

集まる

ステップ2

耳を向ける

ステップ3

声を出す

ステップ4

傾聴する

ステップ5

話す

ステップ6

会話する

ステップ7

考える

ステップ8

意見を出す

ステップ9

考え合う

ステップ10

そしてまた暮らしへ

ステップ6

会話する

● 会話がつながる「視覚化」の方法

子どもの本音が言葉になって出てきたら、子どもたち同士の会話へとつなげていきましょう。

そもそも幼児が「言葉だけで」やり取りするのはとても高度なこと。言葉は触れもしなければ見えもせず、すぐに消えていってしまいます。少しでも気を抜くと話の流れから置いてけぼりになり、最後には飽きてしまいます。ある程度の人数以上の子どもたちが会話をしていくためには、少なくとも「今、何について話しているのか」という土台が共有されている必要があります。

ではその土台はどうやって作ればいいのでしょうか。それはズバリ「視覚化して伝える」ということです。見えない言葉を見えるようにする。それが視覚化です。視覚化の方法はなんでもよいのですが、以下にいくつか代表的なものを挙げてみます。

① 再現劇

例えば午前中にあったけんかについて話す時に、保育者同士がコントのように、その場面を再

現してみる。これでそのけんかを見ていない人たちにもなにがあったのかわかります。

② 人形などを使う（再現劇が恥ずかしい人向け。あるいは保育者が1人しかいない場合に）

人形やぬいぐるみなどを操って、出来事を再現します。これなら1人で何役もできますし、劇が恥ずかしい人でもやりやすいです。

③ 絵で描く

アイデアや意見を子どもたちに出してもらう時に便利な方法です。例えば遠足の行き先とか、食べたい給食メニューとか、グループの名前決めとか。

子どもたちから出されたアイデアや意見を、紙（コピー用紙でもなんでも。A4 くらいの高さがある）に絵と、文字で表します。ここで大事なことは、必ずアイデアや意見は、1枚の紙に1つずつ書くこと。見やすいですし、後で複数出た中から取捨選択をする時にも便利です。なるべく、太いペンで描き、子どもたちからも見やすくしましょう。

みんなでつくる園の未来！

保育ナビ



④ 実物を出す

話題になっているもの、その実物を出してしまうのも、具体的に考えていくことを助けてくれます。「ザリガニを捕まえたけれど、この後どうしよう？」という話題なら、その実物のザリガニをみんなで見ずには見てみてください。

こんな場所でこんな危ないことがあったんだよ、という共有をする時も、実際にみんなでその場所へ移動して、そこを見ながら話すと実感が湧きます。

どの方法も、「視覚化して共有し、会話の土台を作る」ことを目的にしています。それさえできれば、その土台をもとに子どもたち同士でも会話が弾んでいきます。